

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172500241		
法人名	有限会社スローライフ		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	余市郡余市町美園町199番地 (電話) 0135-22-7727		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年7月4日	評価確定日	平成19年7月14日

【情報提供票より】(平成19年6月13日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年3月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算8.7人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円 (生活保護者30,000円)	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1	1	要介護2	1		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 86歳	最低	81歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林病院 わたなべ内科医院 荒木歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームこもれびは、緑に恵まれた環境に位置している。運営者は、平成16年の開設当時から、介護度の高い入居者を進んで受け入れており、利用者の1日が楽しい日となるように、との想いでホームの運営にあたっている。現在は、運営者が管理者を兼ねており、職員と協力して、日々のケアに当たっている。ホーム内は見通しがよく、段差の少ない造りであり、居間からは、隣家のぶどう畑が見渡せ、ホームの庭には、藤棚やユリの花など季節の花が植えられ、景色を楽しみながら、編み物や刺し子など趣味の活動に熱心に取り組んでいる利用者もいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、職員への責任委譲が少ないことが課題となったが、現在は、新規に採用されたケアマネージャーに書類の作成を任せており、行事も担当職員を決めるなどの改善が進んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の実施にはミーティングの場を通じて職員全員で話し合いをしたが、意識は高くはないので、今後は、勉強会を通じて職員の共通理解を深めていく。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、平成18年に1度開催した。参加者の都合もあり、その後は中断していたが、2回目の運営推進会議を近々予定している。今後は、今回のサービス評価の結果を運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、さらに、サービス向上に生かしていく。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	重要事項説明書に苦情受け付け窓口を記載しているが特に不満や意見が出たことはないので、今後は、家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会づくりのために、無記名でのアンケートを実施していく。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会しており、近隣の住民とは、気軽に挨拶を交し合う関係ができていく。地域のボランティアや高校からの実習生の受け入れもある。今後は、運営推進会議を通じて、地域の方々との交流を更に深めていく。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義は理解しているが、地域密着の現状にあった理念には作り変えてはいない。	○	今後は、地域密着の現状に合った理念に作り変えるよう検討することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に対し、理念の意義を日々の実践の中で確認している。職員の新規採用時には、理念について説明しているが、理解の共有までには至っていない。	○	新規採用者を含め、職員全員の理念の共有を期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、近隣の住民とは、気軽に挨拶を交し合う関係ができている。地域のボランティアや高校からの実習生の受け入れもある。	○	今後は、運営推進会議を通じて、地域の方々との交流を更に深めていくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、できることから改善している。自己評価の実施にはミーティングの場を通じて職員全員で話し合いをしたが、意識は高くはない。	○	評価の意義の理解と活用に関しての勉強会を通じて職員の共通理解を深め、改善に努力していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成18年に1度開催した。参加者の都合もあり、その後は中断していたが、2回目の運営推進会議を近々に予定している。	○	今回のサービス評価の結果を運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、さらに、サービス向上に生かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当窓口にも毎月訪問し、情報提供を行なっている。	○	今後は、広報誌を作成する予定があるので、情報提供の一環として、町の担当窓口へ広報誌を届けていくことを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、新規採用の職員等について、家族の来訪時や手紙などで報告し、行事の写真も家族に提供している。また、立替払いの出納明細をレシートとともに、毎月郵送している。前年までは作成していたお便りが中断しているので、現在、広報誌の作成を計画している。	○	広報誌を定期的に家族宛に郵送し、利用者とはホームの様子を報告していくことを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受け付け窓口を記載しているが特に不満や意見が出たことはない。	○	家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会づくりのために、無記名でのアンケートの実施を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職した場合は、新たに配置された職員を食事の時に1週間単位で各利用者の隣に配置するなど、馴染みながら信頼関係が保てるように配慮している。家族等には、訪問時や手紙で知らせるなど配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内部の勉強会を毎月行っており、スタッフ研修や実践者研修など、職員には、可能な限り参加する機会を設けている。	○	職員と話し合い、研修参加の機会を今以上に増やしていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区のグループホーム協議会の役員を引き受けている。役員同士が交流を図り、グループホーム間で、職員を2日間交換している。去年は2名の職員が対象となった。	○	グループホーム間で、職員同士の交流を図るため今年度も継続して実施していくことを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等にホームを見学してもらっているが、本人が来られない場合は、管理者が訪問するようにしている。状況に応じて、家族の家に数日外泊してもらったりしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には、戦争の話を教えてもらったり、編み物や刺し子の得意な利用者に職員が教えてもらったりと、共に過ごし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	海が好きな利用者には、声を掛けて、ドライブに誘ったり、おやつや買い物に職員が同行したり、散歩帰りにホームの菜園に寄って苺を摘んだり、利用者との日々のかかわりの中で、一人ひとりの思いや意向を大切にしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を採り入れ、必要の都度勉強会で話し合い、利用者が自分らしく暮らせるように、家族や関係者の気づきや意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに見直しをすることになっており、さらに必要に応じて、毎月の勉強会で検討し、見直しを行っている。家族には来訪時に相談したり、手紙で問い合わせたりして意見を取り入れている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、理・美容室、図書館などへの送迎を行っている。希望者をコンサートに連れて行くこともある。	○	今後もコンサートなどの特別な外出を希望する利用者に対して、柔軟な対応を広げていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科および歯科の協力医が毎週往診に来訪しており、更に3人については利用者の希望によって、従前からのかかりつけ医のところへ送り迎えし、またその医師に往診にも来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については入居の時に本人と家族等と確認し、同意書をとっている。実際に入院になったときなどには更に話し合っており確認している。	○	近く看護師資格のある職員を採用する予定とのことなので、更に専門の立場から、本人、家族、医師と話し合い、方針の共有に努めることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については職員や実習生に誓約書で確認している。ノート類を外へ持ち出さないことを職員に周知している。一人ひとりの誇りへの配慮については、トイレ誘導の際、トイレという言葉を使わずさりげなく誘導するなど、気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、入浴などはすべて利用者の自由に任せており、時間を決めてはいない。日中の時間の過ごし方は編み物、縫い物、パズルなど、個々の好みや得意に応じて自由に過ごしている。外出や散歩には職員が同行しているが利用者が行きたい時間に対応しない場合もある。	○	職員に対して援助の希望があったときには、可能な限り待たせず、その場での対応を優先するような心がけを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立には随時、利用者の希望を取り入れている。後片付けは希望する利用者と一緒にしている。また、時折野外でバーベキューを楽しんでおり、このときは大勢が作業に参加して楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は決めておらず、好きな時に入ってもらっている。たまたま用意ができていない時でも、入りたいといわれればすぐ沸かして入ってもらっている。夜間、就寝前の入浴希望にも対応している。全員が毎日ないし1日おきに入浴している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、身体状況や能力に応じて、洗濯や食事の跡片付けなどの役割がある。また、新聞切り抜き、編み物、刺し子などの趣味の活動や、苺狩り、ドライブなど楽しむ場面づくりをしている。カラオケでは昔の歌が好まれているが、職員の知らない歌が多い。	○	古い歌の好きな利用者の好みに合わせて、職員もそれを歌えるように練習を心がけることを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くの公園や果樹園へ散歩に、ドライブは雨や雪の日でも、頻繁に行っている。近くに畑を借りていて、その手入れのための外出もしばしば行われている。時にはアイスクリームを食べに外出に連れ出すなど、外出はよくしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけていない。玄関からの見通しが良いので、利用者の外出に気がついたら職員がすぐついてゆくようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への通報・消火訓練を含めて年2回の火災訓練を行っている。避難訓練役割分担表は整備されている。管理者家族3人が同じ棟の階上に住んでいるほか、職員3人が車で5分以内の距離に住んでいるので、災害時の対応に今のところ不安はない。	○	近く予定されている運営推進会議の場を利用して、近隣住民に災害時の応援を依頼しておくことを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの必要な栄養、カロリー、水分量は把握してアセスメント表に記載し、それに基づいて管理している。献立は材料の手持ちを見ながらその日毎に立ており、特に栄養士のチェックも受けていない。	○	今後は、管理者の知人の栄養士にメニューを見せてチェックしてもらい、事前に献立計画を作成することを期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で明るく、快適に保たれている。居間の南に面した窓は大きく、果樹園や遠方の山並みなど、季節感溢れた風景が一望できて心地よい造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や装飾品、道具などが持ち込まれ、落ち着いた空間ができています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。